

【 2017ユース世界選手権 】

2017年8月8日～8月20日 ジョージア・トビリシ

試合結果報告 8 月 14 日 (月)

J P N	VS	ALG(アルジェリア)
17	前半	10
12	後半	11
29	合計	21

個人得点

名前	前半	後半	7MTC		合計
高野 颯太	2	3			5
末岡 拓美	3	0			3
阿部 奎太	1	1			2
部井久アダム勇樹	4	1			5
服部 将成	0	0			0
徳田 廉之介	5	3			8
村木 幸輝	1	1			2
山田 翔騎	0	2			2
堀田 陽大					0
矢野 世人	0	0			0
寺島 健太	1	0			1
中村 光					0
本田 悠也	0	0			0
蔦谷 大雅	0	1			1
川崎 駿	0	0			0
戸井 凱音	0	0			0
合計	17	12	0	0	29

戦評

予選リーグ最終戦はアフリカのアルジェリアが相手。事前のミーティングで「アルジェリアに勝ち3位通過する」と目標を新たに設定し試合に臨んだ。ディフェンスのポイントは3つ。相手の巨漢ピウオット、左側のウイング・バックそしてセンターバックに対するチェックを怠らないこと。この日はNo.12GK堀田がエンジン全開。立て続けに好セーブを連発し得意の速攻へ持ち込む展開を作り出し、No.14寺島がシュートを叩き込む。セットオフenseでは左右の主砲、No.5部井久、No.7徳田にボールを集めながら、相手が釣りだされたところでピウオット、ウイングへ散らす理想的な展開。No.9村木のゲームコントロールが光った。終盤に3連取を2回と猛攻を仕掛け17-10と、ゲームの主導権を握ったまま進んだように見える前半だったが、ディフェンスでのリバウンドボールの処理でことごとく相手に負け失点を許す嫌な感触が残った。

ハーフタイムは「リバウンドで体を張る」を再徹底して後半に臨んだ。

出だしも、2連取と好調のスタート。しかし直後にリバウンド処理でことごとく相手に拾われ3連続失点を許す。リードしているが異様な雰囲気にも包まれた日本だったが、セットオフenseでのミドルがよく決まり13分過ぎで23-15となんとか踏みとどまる。しかしついに相手のペースに飲み込まれると16分から24分まで8分間ノーゴールの苦しい展開になる。この間3連続失点とアルジェリアに23-18と5点差まで追い上げられる。攻撃のテンポを変えたい日本ベンチはセンターバックにNo.10山田を投入。広い1対1の局面を作り出すと自らシュートを2連続でねじ込み加点。落ち着きを取り戻した日本は終盤にNo.2高野、No.4阿部、No.7徳田の3連取で29-21とし見事3勝目を挙げ、決勝トーナメント進出を決めた。

3大会連続出場の日本だがベスト16入りは初の快挙である。

次戦は予選Aグループ2位のエジプトと当たる。決勝トーナメントを戦えることに喜びを感じながら、まずは事前のミーティングからしっかりと準備して行きたい。

報告記入者 :

吉村 晃